

藤縄議員要望項目一覧

令和6年度当初分

要望項目	左に対する対応方針等
<p>【令和5年度補正関係】 ダイハツ工業株式会社の生産停止及び出荷停止に伴い、影響を受ける県内企業への支援について</p> <p>ダイハツ工業の車両認証試験の不正問題を受け、県内の同社グループと取引のある企業の経営影響拡大が懸念されている。</p> <p>県は早急に相談窓口を設置し、鳥取県企業自立サポート融資「鳥取県地域経済変動対策資金」を活用した資金繰り支援や事業者向けの相談を行うなど、対応をしてきているところであるが、引き続き県内同社グループと取引のある企業に対して、資金繰りや雇用などに影響が出ないよう臨機応変に対応していただきたい。</p>	<p>本県ではダイハツ工業（株）の出荷及び生産停止を受けて、令和5年12月26日付けで特別資金（地域経済変動対策資金「ダイハツ工業（株）の出荷及び生産停止対策」）を発動するとともに相談窓口を設置し、影響を受ける恐れのある県内中小企業の支援体制を構築した。</p> <p>また、生産停止の長期化による雇用への影響が広がった場合に備えて、国の雇用調整助成金等の支援策を案内するほか、県立ハローワーク等でも広く相談に応じることとしている。</p> <p>ダイハツ工業（株）による取引先への補償、国制度による支援等と併せ、引き続き状況に応じた適切な対応を講じていく。</p>
<p>【令和6年度当初予算関係】</p> <p>1 県立高等学校のあり方について</p> <p>県教育委員会において、令和8年度以降の県立高等学校教育の基本的な考え方や施策展開の方向性を示した基本方針策定の検討を進めてきているところである。</p> <p>基本方針の策定に当たっては、少子化に伴う県内中学校卒業生数の減少や教育を取り巻く環境がめまぐるしく変化する状況の中で、求められている高校教育の在り方、高等学校と地域が一体となった魅力ある高校づくり、地域づくりの検討が重要であり、地域の中学校卒業生の進路の選択肢を確保し、教育活動を充実させることを最優先に考えるべきである。</p> <p>また、高等学校の統廃合については、小中学校の児童生徒や保護者、地元関係者や企業に大きな影響を与えることとなる。</p> <p>については、県教育委員会において覚悟をもって基本方針を策定し、地元市町と連携を図り、しっかりと施策展開を行っていただきたい。</p>	<p>基本方針の策定にあたっては、教育を取り巻く環境変化の激しさの中にあっても、子どもたちの学びを第一に考え、県立高校が中学生にとって魅力があり、期待に応えていく存在であるよう、それぞれの高校の設置目的を明確にし、時代や社会の変化、地元産業界や地域のニーズ、教育における不易と流行を見定めながら、子どもたちが夢や目標をもって人生を切り拓くためのより良い学びの環境を整備するため、生徒の意向や目的を大切に視点を検討を進めている。</p> <p>また、教育目的や地域性、地理的環境等を考慮した上で教育効果が最大限発揮できる特色ある新しい姿の学校を目指し、市部・郡部のバランスも考慮しながら再編・統合を含めて慎重に検討を進めるとともに、地域や地元産業界の声を踏まえて、地域や学科のバランスを全県的に考慮し、検討を進めていく。</p> <p>特に中山間地域の学校については、地元自治体等との関わりを考慮したうえで、地域外から生徒を呼びこむことのできる特色あるカリキュラム編成や、地元自治体等と連携した住環境の整備などを検討するとともに、県外生徒募集活動を行うための統括コーディネーターの配置や、県と地元自治体が連携して運営支援する民間寮に対する入居者が一定数を満たさない場合の支援制度の創設を令和6年度当初予算案で検討している。</p> <p>・つながる ひろがる 高校魅力充実事業 11, 122千円 ・地域に根差した魅力ある学校づくり推進事業 40, 828千円</p>

要望項目	左に対する対応方針等
<p>2 県立病院における看護師の確保について</p> <p>県内の看護師数は増加しているものの、県立病院においては育休・休職・離職者などにより慢性的な不足感があるため、看護師の就業継続が可能な働き方に応じた体制を整備することが必要である。</p> <p>看護師の確保及び離職防止のため、看護師の希望にあった多様な勤務形態が取り入れられるよう体制を整備するとともに、病院局と知事部局が連携し、制度面での国への要望も含めた看護師の確保対策に取り組んでいただきたい。</p>	<p>左に対する対応方針等</p> <p>育児休業や休職の状況を踏まえ、引き続き看護職員の確保に努めるとともに、会計年度任用職員（夜勤4回以上）の月額単価の加算などにより、夜勤に従事する看護職員の増強を図っていく。なお、令和5年8月から、やむを得ず推奨以上の夜勤回数（月9回）以上になった場合は、夜間看護手当の加算を設ける処遇改善を行ったところである。</p> <p>今後、柔軟な勤務形態の一例として、育児支援を受けている看護職員がフルタイムに移行しやすい工夫や夜勤専従看護師の導入などを検討するとともに、看護師業務のタスクシフトの推進や夜間看護助手の派遣等アウトソーシングの拡充も進めながら、知事部局とも連携して、考えられる看護師の確保対策に取り組んでいく。</p>
<p>3 畜産における飼料価格高騰に係る支援について</p> <p>畜産における生産費に占める飼料費の割合は高く、飼料原料のほとんどを海外からの輸入に依存しており、飼料価格の高騰が経営に及ぼす影響は極めて大きなものとなっている。</p> <p>コロナ禍による物流停滞や異常気象による不作、急激な円安、ウクライナ情勢などの影響から輸入飼料価格は高騰し、高止まりの状況となっており、畜産農家の経営圧迫は深刻な状況である。</p> <p>畜産農家が健全な経営を継続できるよう、飼料の高騰に対する支援の継続をしていただきたい。</p> <p>また、持続可能な畜産の実現に資するため、飼料の高騰等に影響されない自給飼料の供給体制を構築する必要がある。そのための機械等の導入、施設整備等の経費の支援など、自給飼料の生産拡大に向けた支援施策の充実強化をしていただきたい。</p>	<p>飼料価格の高止まりにより依然として畜産農家の経営が圧迫されていることから、畜産経営緊急救済事業の継続を令和6年度当初予算案において検討している。</p> <p>また、飼料価格高騰の影響を受けにくい生産体制を構築するため、自給飼料生産に係る機械導入に対する支援や、新規飼料生産組織設立に対する機械借り上げ料の支援等を令和6年度当初予算案において検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産経営緊急救済事業 44,759千円 ・自給飼料生産確保対策事業 11,403千円
<p>4 山陰海岸ジオパークの世界認定について</p> <p>日本ジオパーク委員会による昨年10月の事前確認において、継続的に活動する地元団体・事業者、地域住民がおり、ユネスコ世界ジオパークの理念に努めながら優れた活動をしていると評価された一方、ジオパーク推進協議会の構成主体及び事務局のジオパークの理念への理解と共有が不十分とされ、ジオパーク活動に取り組む人々たちを繋ぐ役割を果たせていないと講評された。</p> <p>山陰海岸ジオパークは、山陰海岸地域における地域資源を活用した地域経済活性化の起爆剤の一つとして貴重な財産である。</p> <p>については、令和6年度の山陰海岸ジオパークのユネスコ再認定審査に向けて、正式認定が受けられるよう、「今後の課題・改善すべき点」として挙げられた事項について、万全の対策を講じていただきたい。</p>	<p>日本ジオパーク委員会からの事前確認結果通知を踏まえ、山陰海岸ジオパーク推進協議会（以下「協議会」という。）及び構成自治体、関係者等が連携して対応を進めているところである。</p> <p>指摘を受けた事項のうち、「運営組織の強化」については、昨年11月に開催された山陰海岸ジオパーク構成自治体連携会議において「協議会組織の法人化に向けた検討を進めること」について合意された。また、「地質資源の販売中止」については、兵庫県、豊岡市及び日本ジオパーク委員会関係者や販売者で構成する組織において、販売中止に向けた方策の協議が重ねられているところ、本県も代替策として鉱物のレプリカ販売等を提案しており、一部実施され始めている。</p> <p>再審査において確実に再認定を受けられるよう、引き続き協議会や構成自治体とともにできる限りの対応を行っていく。</p>

要望項目	左に対する対応方針等
<p>5 「鳥取うみなみロード」のナショナルサイクルルートの指定に向けた取組について</p> <p>自転車スポーツ・レジャーとしてライフスタイルに取り入れる人が増えつつある中、その流れがコロナ禍で加速し、ポストコロナの観光復活に向けて、「サイクルツーリズム」に期待が高まっている。</p> <p>本県においては、「鳥取うみなみロード」を基軸としたナショナルサイクルルートの指定を目指しているところであり、市町村をはじめ、地元と連携をして、機運を醸成し、自転車文化の定着を目指していただきたい。</p> <p>については、「鳥取うみなみロード」のナショナルサイクルルート指定に向けて、走行環境確保や受入環境確保など、ハード面・ソフト面の整備を進めてきたところであるが、次期指定に向けて、ナショナルサイクルルートの指定要件を確実に満たすよう万全の対策を講じていただきたい。</p> <p>また、更なるサイクリング環境の向上を目指した取組を促進していただきたい。</p>	<p>次期ナショナルサイクルルートの指定に向けて、矢羽根や注意喚起の路面表示、案内看板等をはじめとする走行環境の整備を進めるほか、「ダイジョウブシステム」の拡充といった受入環境の充実や情報発信の強化等、「鳥取うみなみロード整備計画」に基づくハード面・ソフト面の整備を進め、令和6年度中の完了を目指す。</p> <p>併せて、レンタサイクル拠点整備やサイクルトレイン運行に向けた駅構内案内サイン設置支援など、更なるサイクリング環境の向上を目指した対策を令和6年度当初予算案で検討しており、引き続きサイクリング環境の向上に向けた施策を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイクリストの聖地鳥取県整備事業（サイクルツーリズム推進事業） 47, 166千円
<p>6 台湾と鳥取砂丘コナン空港を結ぶ定期便就航の実現及び台湾台中市との交流推進について</p> <p>昨年10月に鳥取と台湾を結ぶチャーター便が4年ぶりに再開され、充実した運航に取り組んでいただいたところである。</p> <p>台湾の鳥取砂丘コナン空港に対するチャーター便の需要は高く、令和元年度は台湾とのチャーター便が37往復運航されていた実績があり、今回のチャーター便の成功を契機として、台湾との新たな定期路線開設の実現を目指すとともに、台湾台中市との交流を更に推進していただきたい。</p> <p>また、台湾はサイクリング大国であり、台中市政府はサイクルツーリズムに積極的である。2021年には、台湾観光局が国内外のサイクリング愛好家を引き付け観光業と自転車産業の発展につなげようと、「多元的な16の自転車コース」を設定するなどサイクリング熱が高い地域でもある。</p> <p>チャーター便の再開を機に、自転車文化が根付いている台湾と本県、両地域の観光資源を生かした自転車交流を更に推進していただきたい。</p>	<p>まずは県内空港への早期の長期チャーター便実現に向けて、引き続き、航空会社や旅行会社と調整を進めていく。併せて台湾での旅行博への出展や「鳥取県観光PR大使」によるSNSを活用したプロモーション、旅行社やメディア・インフルエンサーを招へいた視察ツアーなど、四季を通じて、本県の豊かな食や自然などを積極的に情報発信して知名度向上を図り、チャーター便の実績を積み上げることで1日も早い定期便就航を実現する。</p> <p>台湾台中市とは、2018年11月の友好交流協定締結以降、サイクリング、青少年、観光等の幅広い分野で交流を推進しており、サイクリングでは交流団を相互派遣してきた。昨年10月の「鳥取すごい！ライド」には台湾から7名（日本在住の台湾関係者を含めると16名）に参加していただき、久しぶりに自転車交流による親睦を深めた。</p> <p>引き続き、台中市をはじめとする台湾との交流を推進していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド観光V字回復推進事業 547, 350千円 ・国際交流推進事業 122, 250千円